

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 73 号

発行日  
2026.04. 15  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

○何故書き続けるのか？真の答えを見つけた気がする？！

さて、今号で、この書き物も、早4年目を迎える！正直言  
って、それまで続けてきた各種論考(随筆/短歌含む)を、改  
めて一つの形(新聞記事風)にしてやっつけていこうということ  
で、ここまで来たのであるが、やはり「何のために」それを  
やっているのかが、はつきりとしていなかったように思う  
(単なる延長?)!!退職後の暇潰しではないことは明らかでは  
あるが(これは断言できる)笑、ただ漫然と「自分のため」  
という納得?で、書き記してきたということでもある(副題  
の「あくまでも自分史として」は、その意を表している)!!

ところで、過日、ひよんなことから、太平洋戦争(樺島  
で戦死したとされる「市丸利之助」海軍中将のことを知っ  
た!彼が、私の郷里・佐賀県唐津市(旧久里村柏崎)の出身だ  
ということが分かったからであるが、この人の生き様が(ほ  
んの32歳までであるが)、何故か、そんな私に、「書くこと  
の意味」を教えてくれたような気がした!詳しいことは書け  
ないが、彼は、戦死(突撃)する前に、当時の米国F・ルー  
ズベルト大統領宛の手紙を認めていたという(「ルーズベルト  
ニ与フル書」遺書とされる!)。「戦因の一端は米国にある」  
というように書いてあるらしいが、自分が生きた時代  
(戦争)の真実を、彼なりに伝えていたわけである!

残念ながら、その手紙は、当のルーズベルトには届いてい  
なかったということであるが、今もなお、米国(アナポリス  
博物館)で保管されているということである!それが、どの  
ような経緯で、そこに保管されているのかは分からないが、  
その手紙は、それを託された、部下の村上大尉の懐中(死体  
にあったもの)だという!これもまた、胸を打たれる!

○「ミニミニゼミ同窓会」!!やはりやっつけてよかった!

先月(3月22日)、「ミニミニゼミ同窓会」を開いた!  
場所は、那覇市壺屋界隈の和食居酒屋であったが、これ  
は、私と、ある時期の卒業生H君とで企画したものであ  
る!目的は、長い間教員採用試験にチャレンジしていた  
K君が、やっとう合格したので、その祝いをしようとい  
うことであったが、副次的には、同じ時期にゼミ活動を行  
っていた同窓生(島嶼文化教育コース)に、久し振りに集  
まろうと呼び掛けたものである!日程的に難しい面もあ  
ったが(県外から参加するU君の事情を加味)、私も含めて、  
都合9人(2人は「準ゼミ/メイト生」の集まりとなった!  
残念にも、呼び掛けた卒業生の一部の参加が叶わな  
かったが、それは仕方がない!声が聴けただけでも、よし  
としなければならぬ(ただし、まったく音信がない人もい  
る!そちらの方は、別の意味で心配ではある?)!!ということ  
で、この間、この集まりに参加出来なかった卒業生(直接  
呼びかけられなかった人を含む)にも連絡を取り、その後の  
状況(人生模様?)を知ることに出来た!総じて、みんな、  
それなりの苦勞をしながら(自らの病や家族の闘病を含  
む)、今は元気に頑張っているようであった!ただ、彼  
らは40代を生きており、当然ながら、見た、あるいは  
声の感じは、かなり変わっていた(私もだが!笑!)

いずれにしても、やはりやっつけてよかったと思う!いつ  
までも「先生面」をしていると、笑われる(批判される?)  
かもしれないが、私は、それでよいと思っている(もちろん、  
ゼミ卒業生の全員が、そのことをどう受け止めているかは、  
ここでは問わないが?笑!それしか、能がないのだから?)

○何故、「共感」が争いを生むのか?「UJ」の「自己矛盾」?

これまで過日、ある興味深いネット記事を見つけた!それは、  
NHKのテレビ番組のことである(「フロンティア」/BS-P4K/  
初回放送日2月16日)。直接その放送を見ることは出来なかつた  
が、「共感を疑え なぜ人は争うのか?」という見出しであった!  
現在の世界、そして国内情勢を見るにつけ、何故か(当然か?)、  
そこに目が向いてしまったわけである!

しかるに、同番組案内には、「二分断と憎悪が広がる現代社会。  
なぜ人は言語や道徳など互いに分かり合う術を持ちながら、争い  
をやめられないのか?原因の一つとして注目されているのが『共  
感』だ。なぜ共感が争いを生むのか?ヘイトクライムの当事者の  
告白や、内集団への偏った共感の実例を手がかりに、最新研究か  
ら共感の光と影を検証。さらにロボットやVR技術を駆使した研  
究を通して、共感とどう向き合えば対立を乗り越えられるのか人  
類の未来の可能性を探る。」とあった!

しかるに、今回は、実際の放送を見ていないので、これ以上は  
何とも言えないが、察するに、人間(人類「ホモサピエンス」)の特  
性(良さ?武器?)である「共感」の感情が、皮肉にも、その逆の  
結果(悲惨)をもたらしているということであろう!!ただし、そ  
れだけであれば、何故、そのような皮肉(逆の効果)が生じるかの  
原因(メカニズム?)が分からない!それが分からないと、その対  
処法が見えない?そういうことであろう(間違っていたら申し訳な  
い!)!!とは言え、その答えは、ある意味至極簡単なことである  
かもしれない!!

要は、自らと同じ利害(別言すれば思想?欲望?)を有するもの  
であれば、まさに「共感」という動きになり、その逆(異なるも  
の)であれば、それが、「嫌悪」や「敵愾心」という方向に動く?  
人類(ヒト)の「生物学的生存本能」というようにも言えるであ  
ろうが、重要なのは、それを、どのようにして「調整」すればよ  
いのかということである!「争い」は、人類(ヒト)の宿命と言  
えるかもしれないが、それを「調整」していくのもまた、人類  
(ヒト)の宿命なのである!!問題は、その調整が、国家間レベル  
(民族・宗教)でどうなるのかということである!

(井上)

